

第2期中期目標期間（平成25～30年度）業務実績評価結果に対する業務等への反映状況

公立大学法人福井県立大学

分野	評価委員会の提言	業務への反映状況等
教育	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学年齢である18才人口の減少を見据え、県内の大学、高専などの高等教育機関が国公立の枠を越えて単位互換、地域連携などに取り組むとともに、それぞれの魅力を高めることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学を含む県内8つの高等教育機関と県が参画する「FAA ふくいアカデミックアライアンス」が設立され、県内入学者確保、学生の県内定着、PBLの促進等に向け具体的な取り組みを行うこととした。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域が抱える課題などを現場で学ぶフィールドワークやFスクエアを拠点とした地域志向科目の開講等により福井の魅力や特色を学ぶ講義を充実させている。今後はさらに、地元企業等におけるインターンシップなど実践的な学習を増やし、若者の県内定着など、本県の活性化に貢献することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公設試験場の研究員や経営農家・企業の実務者が教員となり、実務教育を担う「特任講師」制度を新設し、創造農学科での実践指導に当たった。 生物資源学科において、福井県インターンシップ制度を活用し、実務体験する授業を設けた。 海洋生物資源学部において、地域水産市場での学習や水産加工業者による加工実習、定置網漁業の操業体験学習、漁業者による講義を実施したほか、若狭町内の慣行農法および有機農法のフナ稚魚育成水田における実習等を行った。
研究等	<ul style="list-style-type: none"> 進学先として選ばれる魅力ある大学となるためには、他大学との差別化を図ることが必要であり、海外の大学や研究所等との共同研究を進めるなど、国際的な展開に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物資源学部において、中国で農業・不動産等の幅広い事業を展開する「朗基グループ」と上海交通大学設計学院の三者間で「未来の農業技術革新」と「美しい農村景観の創造」をテーマに連携協定を締結した。 恐竜学研究所において、国内外の研究機関と中国ゴビ砂漠やタイにおいて共同化石発掘調査を実施した。 既存の17校に加え、新たに浙江工商大学（中国）、チチェスターカレッジ（イギリス）、トロント大学（カナダ）と学術交流協定を締結した。
	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果を地域に還元することは、県立大学の役割の一つであることから、行政、企業等と連携した研究を進めるとともに、より一層、大学の教育や研究成果などの情報を発信することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> プレスリリース、大学広報誌、ホームページ等による発信に加え、SNSを活用した情報発信の開始に向け、運用体制等について検討を進めた。 創造農学科のPRも兼ねた米の味を変える遺伝子に関する講座やAI・IoT技術を用いた水産増養殖に関する講座、福井の歴史偉人の活躍や地場産業、健康長寿に関する講座等、13の特別企画講座を開講した。
地域貢献 国際交流等	<ul style="list-style-type: none"> 県民の学び支援について、聴講生・科目等履修生の受講料減額や多彩な公開講座の開催などにより、県内の中高生から専門分野関係者まで幅広く多くの受講者を集めており高く評価できる。また、人生100年時代に対応するため、リカレント教育をより一層充実することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> アオッサやハピリン、敦賀市商工会議所、県園芸研究センター（美浜町）、海浜自然センター（小浜市）等、テーマや年齢層に合わせ様々な場所で84の公開講座を開講し、延べ3,208人が受講した。 「短期ビジネス講座」において、受講者のニーズや要望を集計・分析した結果に基づき、講師陣の変更や広告代理店における人材育成や経営情報に基づくデータ分析入門等をテーマにした講義を行った。 医療機関における外国人患者の対応等、大学院教育とのつながりを意識・工夫した公開講座を試行的に実施し、結果を踏まえ今後の進め方や内容等について検討した。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献を進めるとともに、学生と地域とのつながりを強化するため、学生が現場へ赴き、学生目線で地域の課題を解決する取り組みを増やすことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に興味がある学生20名を「地域連携スタッフ」として登録し、活動を助成する制度を設け、越前和紙による地域振興等を考える学生の活動に経費を助成した。
	<ul style="list-style-type: none"> 国際化について、新たな学術交流協定校との交流協定締結など留学派遣先の拡大や留学助成制度の改善など学生が留学しやすい環境を整備することにより、海外留学派遣者数を増加させたことは評価できる。一方、外国人留学生の受入れについて、留学生宿舎の確保や学生チューターの配置による生活支援、進学説明会の開催など留学生の確保に向けた努力は評価するが、受入れ人数 	<ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構による東京・大阪での進学説明会で個別相談会を実施したほか、北陸3県や在学私費留学生の母校の日本語学校に外国語版資料の送付等、PR活動を行った。

分野	評価委員会の提言	業務への反映状況等
	<p>の増加に向け、さらなる努力が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の17校に加え、新たに浙江工商大学（中国）、チチェスターカレッジ（イギリス）、トロント大学（カナダ）と学術交流協定を締結し、既存協定校を含め学生8人を派遣するとともに、新たな交換留学生を23人受け入れた。 ・外国人留学生の学生生活支援のため、日本語教室や最高レベル（N1）取得を目標とした日本語能力試験対策講座を開講した。
<p>業務運営の 改善・効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的視点から公立大学法人の事務局体制を強化するため、専門的な知識および経験が求められる業務においてプロパー職員の採用および養成は必要であり、引き続き実現に向け検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からプロパー職員2名の採用を決定した。
	<p>県立大学の特色を打ち出した広報の強化に努め、より存在感をアピールする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学章や大学ロゴ等を再整理した県大UIデザインを制作し、刊行物等での使用を進めた。 ・大学100周年ロゴを作成し、大学案内パンフレット等に掲載し広く周知した。